

看護学 専攻 _____ 領域（博士前期(修士)・博士後期・前後期共通）
試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（ ）
試験時間：（ ）分

【問題1】

1. 著者は、この問題がどのように人間の健康に影響すると説明していますか？
気候変動：熱波、極端な気象現象、洪水、山火事の増加
健康影響：熱関連疾患、水系感染症、媒介感染、極端な気象現象による事故、精神衛生の問題、大気汚染など
2. ②の下線部分を和訳してください。
気候変動と健康の関連性に関する知識は医療従事者にとって不可欠なものであり、そのためには看護教育に含めるべきである
3. ③の下線部分を和訳してください。
国際看護師協議会(ICN, 2018)は、看護師らが気候変動による健康課題に立ち向かうための保健医療システムの必要性を認識し、環境要因と健康との関連性への意識向上に努めている
4. ④著者は「看護師の果たすべき重要な役割」について、どのように説明していますか？
気候変動対策や環境の持続可能性向上に関する取り組み
医療廃棄物の管理、リサイクル、再利用可能な看護用品の使用の促進などの環境保護の推進
世界中の看護師による樹木植樹プロジェクトへの参加
環境保護
公衆衛生へのコミットメント
5. ⑤の下線部分を和訳してください。
気候変動と健康の関連性は認識されてきたが、看護教育においてはまだ十分に体系的に統合されていない

【問題 2】

設問 1. 吃音を持つ人は、働く上でどのような可能性があるかと述べていますか。

またその理由は何か答えなさい。

可能性：キャリア選択や成長を妨げる可能性がある

理由： 吃音は目に見えない障害であるため、PWS は健常者と障害者の境界に位置し、健常者と同じ条件で働くことが暗黙のうちに期待され、評価されるため

設問 2. 吃音のある看護師は、職場においてどのような経験をしているかと述べていますか。

症状の重症度に関わらず、職場において吃音のために強い感情的反応と低い自尊心を経験する

設問 3. 先行研究における、専門職としてのアイデンティティに悪影響を及ぼす要因を挙げなさい。

偏見、心理的苦痛、その結果としての低い自尊心

臨床現場における非看護師の吃音に対する著しい否定的な思考や感情

設問 4. 本研究の意義を述べなさい。

吃音に関連する困難を克服し、専門職としてのアイデンティティを発達させる方法について新たな知見を得ることが重要

設問 5. Trajectory Equifinality Approach (複線径路等至性アプローチ) は本研究においてどのような効果があると述べられていますか。

- ・ 内部 (人間) と外部 (環境) の両方の側面を包含し、個人および社会文化的背景の中で専門家としての NWS の成長を捉える
- ・ 読者は単一の事例研究であっても、彼らの共通の経験と社会関係における個人の変容の意味を深く理解することができる

設問 6. 本研究の目的を答えなさい。

TEA を通じてこの発達の包括的なモデルを提示し、NWS がどのように職業的アイデンティティを発達させるかを明らかにする

看護学 専攻 老年看護学 領域（博士前期/修士） **解答または解答例**

試験科目： 専門科目（ 老年看護学 ）

試験時間：（ 60 ）分

I. 以下の文章を読み、各設問に解答しなさい。解答はすべて解答用紙に日本語で記載すること。設問毎に解答用紙をそれぞれ1枚使用すること。

令和6年度診療報酬改定で、入院基本料算定要件の一つとして、医療機関における身体的拘束を最小化する取組を強化するため、入院料の施設基準に、患者又は他の患者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束を行ってはならないことを規定するとともに、医療機関において組織的に身体的拘束を最小化する体制を整備することが規定されました。

参考文献：厚生労働省保険局医療課；令和6年度診療報酬改定の概要 重点分野Ⅱ（認知症、精神医療、難病患者に対する医療）<https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/001238907.pdf>

設問1. 身体拘束となる具体的な行為について7つあげなさい。7×3 =21

体幹抑制、四肢抑制、ミトン、車いすベルト、ベッド4点柵、つなぎ服、センサーマット類

設問2. 身体拘束による弊害について6つあげなさい。6×4 =24

筋力低下、拘縮、褥瘡、皮膚損傷、うつ症状、不安・興奮、ケア提供者のジレンマ・士気低下

設問3. 医療機関において身体的拘束を最小化するために①個人に求められること、②チームや組織としてどのような取り組みが重要か、自己の考えについて記載しなさい。10×2=20

①については、倫理観の醸成、統合的なアセスメント力に関連する記述

②については、身体拘束最小化にむけて、チームカンファレンスを開催、代替手段についてチームで検討、身体拘束最小化の組織文化醸成に向けた、教育研修の実施に関連する記述

平成30年に認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインが策定された。意思決定支援プロセスには、意思決定支援者の態度、意思決定支援者との信頼関係、立ち会う者との関係性への配慮等の「人的・物的環境の整備」を土台として、「意思形成支援」、「意思表示支援」、「意思実現支援」のステップが明示されている。

参考文献：厚生労働省；認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000212396.pdf>

設問4. 意識障害のある人や認知症の人の意思決定支援について、自己の臨床経験でかかわった事例を具体例にあげて、①どのような意思決定支援にかかわったか、②上記ガイドラインの土台である「人的・物的環境の整備」と意思決定支援の3つのステップに沿って、かかわった支援内容を記載し、③支援の結果とその結果から考察する課題について論じなさい。

5+15+15=35

自己がかかわった事例について、上記①-③のステップに沿って、記載されている内容を評価

看護学 専攻 _____ 領域（博士前期^{修士}・博士後期・前後期共通）

試験科目： 小論文

試験時間：（ 60 ）分

出題の意図

課題文を精読し、多角的な視点から思考し、論理的に自己の考えを表現する力を評価します。
あわせて、人間の存在や尊厳への視点をもとに、看護職としての姿勢を確認します。